

新しくされた人シリーズ④「まだ若い、と言うな」

エレミヤ書1章1～10節

主題：エレミヤの召命

主意：私たちとともにおられ、私たちを守り、力を与えてくださるお方に信頼して歩む。

中心聖句：エレミヤ書1章7～8節

序論：

- ・神様の招きに応答した預言者イザヤに与えられた使命は、悲しみや忍耐を要するような働きであった。
- ・神様から与えられた使命に対する「不安」や「恐れ」が、今日の箇所のテーマ。

本論：

I、エレミヤについて（1～3節）

- ①出身は「ベニヤミンの地、アナトテ」という田舎町。
- ②父親は、「祭司の一人、ヒルキヤ」。
- ③エレミヤの幼少期は、「マナセ王」が国を治めていた時代。
 - 「マナセ王」は、「ユダの王、アモンの子ヨシヤ（2節）」の祖父に当たる人物。
 - 「マナセ王」は、たくさんの偶像を造り、国中に異教の文化を取り入れた人物。（列王記 第二 21章）

II、エレミヤの応答（4～6節）

- ①突然与えられた「預言者になりなさい。」という神様からの使命。（5節）
- ②しかし、その使命に素直に答えることのできないエレミヤ。（6節）
 - 「まだ若くて（若い）」の意味は、「（年齢的な）若さ」の他に、「経験不足」「力不足」という意味がある。
 - この時のエレミヤは、おそらく20歳前後であったと考えられている。
- ③「自分なんて」と思ってしまう感情。
 - 私たち人間には、神様からの招き（使命）に、素直に答えることのできない心の弱さがある。

III、「まだ若い、と言うな。」（7～10節）

- ①神様が「まだ若い、と言うな。」と言われる3つの理由。
 - 1、神様があなたのことを知っておられるから。（5節）
 - 2、神様があなたとともにいて、守ってくださるから。（8節）
 - 3、神様があなたに力を与えてくださるから。（9～10節）
- ②神様のことばは、エレミヤにだけ語られたわけではない。
- ③「まだ若い、と言うな。」のみことばに、信頼して歩んでいきたい。
 - そうすることで、大胆にキリストを証し、みことばを宣べ伝えることができる。

結論：

- ・素直に答えることのできない私たちであっても、みことばに信頼して、クリスチャンとして歩んでいくことが求められている。
- ・「まだ若い、と言うな。」と語りかけてくださる神様に信頼する時、神様は私たちとともにおられ、私たちを守り、私たちに力を与えてくださる。
- ・そのことを信じて、新しい一週間を歩んでいきましょう。